

Caution

様似山道を歩かれる方へ 歩くときの注意事項

危険な動物に注意！！

様似山道一帯がヒグマの生息地です。歩かれる方は熊よけの鈴などを携帯ください。また、マダニやスズメバチ、マムシなどの動物もいますので、帽子、長そでなど服装にも注意してください。

ケガに注意！！

山道には一部、険しい箇所があります。滑落、落石、枯損木の落下などに注意し、自己責任での歩行をお願いいたします。

また、山道のほぼ全線で携帯電話が通じませんので、お気をつけください。

服装に注意！！

履きなれた登山靴、地図、コンパス、GPS、非常食、防寒服など軽登山の格好での歩行をお願いいたします。



●お問い合わせ

様似郷土館

〒058-0024

北海道様似郡様似町会所町1番地

TEL 0146-36-3335

●発行

様似町教育委員会

〒058-8501

北海道様似郡様似町大通1丁目21番地

TEL 0146-36-2521

様似山道アクセスマップ SAMANI Mountain Path Access Map



公共交通機関でお越しの方

様似駅からジェイ・アール北海道バス「えりも」方面に乗車、下記停留所で下車。

バス停留所

①「幌満」……………東入口まで徒歩5分

②「東冬島」……………西入口まで徒歩5分

③「コトニ」……………コトニ口まで徒歩5分

自動車でお越しの方

国道236号線、336号線を進み、幌満コミュニティセンター駐車場に駐車。幌満コミュニティセンターから徒歩5分で東入口に到着。(コトニ口・西入口前に駐車場はありません)

— 国指定史跡 —

さまにさんどう

様似山道



SAMANI Mountain Path Map



江戸幕府によって開かれた、いにしへの道

様似山道の歴史

様似山道は、寛政11(1799)年に中村小市郎の指揮によって開削された山道です。この頃、蝦夷地と呼ばれていた北海道には度々異国船が訪れるようになり、幕府はそれらの脅威に備える必要が迫られました。そして、幕府は寛政10(1798)年に調査団を派遣し、蝦夷地の巡見をおこないます。その時調査団に加わっていた近藤重蔵は、断崖絶壁が連なり悪天候時には通行が困難になる様似～広尾にかけての海岸線に代わる陸路の整備が北方警備のためには重要と考え、寛政11年江戸幕府の公費によって様似山道と猿留山道を開削しました。これが蝦夷地の官営道路の初めとなります。その後明治期になっても、橋の修理などをおこないながら使用され、明治17(1884)年には、山道を活用して電信線が引かれ、電信線の維持管理の際の作業道として使用されます。昭和の沿岸道路の開通により使用されることはなくなったものの、近隣住民の生活の一部として脈々と受け継がれました。

そして、その歴史的価値が認められ、昭和60(1985)年11月19日に様似町の文化財に、平成30(2018)年2月13日に一部が国の史跡に指定されました。



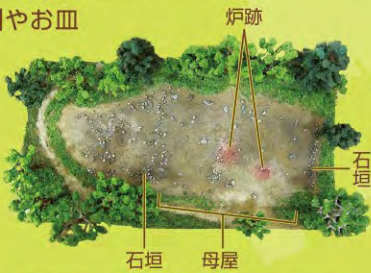
「シャマニ場所絵図」所蔵：様似郷土館

見どころ1

原田宿跡

明治6(1873)年から明治18(1885)年まで山道中腹には静内町(現 新ひだか町)に入植した淡路藩のひとり原田安太郎氏が営んでいた宿屋(原田宿)がありました。これらの発掘調査を実施し、建物の礎石や石垣、炉の跡などを確認しました。これらの発掘調査によって建物の大きさが4間(約7.2m)×7間(約12.6m)ということがわかりました。また、発掘調査では徳利やお皿など原田宿で使われていたものもたくさん出土しました。

今でも、現地には礎石などが残っており、当時の原田宿の面影を感じることができます。



原田宿の発掘調査時の模型

見どころ2

山道に残る電柱跡

様似山道沿いには、現在でも、昭和の頃の電柱のものとされる電柱の跡や碍子(がいし)がみられます。これらは、山道が電信電話線の作業道にも使用されていたことを伝える重要な証拠の1つです。

碍子のマーク

いろいろ

山道沿いに落ちている碍子の中には、製造会社のマークが付いているものがあります。歩きながらマークの付いた碍子を探してみましょう。ちなみに、碍子のマークが「TG」は愛知県瀬戸市に所在する株式会社 TG ケラー (1915～)、「山エツ」は愛知県瀬戸市に所在する山悦電機製陶株式会社 (1886～)、「山内」は東京に所在する山内電機株式会社 (1933～) のマークと思われます。



※碍子も様似山道の歴史を伝える重要な資料ですので、持ち帰りや場所の移動などはご遠慮ください。

見どころ3

様似山道の植物



サマニカラマツの花

様似山道は、北海道の寒冷帯要素と本州の温帯要素が交じり合う冷温帯要素の最も東にあたる地域であり、太平洋の潮風の影響や超塩基性岩のかんらん岩で構成されるアポイ岳の麓に位置するため豊富な植物相で構成されています。

山道で見られる植物は71科268種で、温帯要素の植物はキタゴヨウ、サンショウ、ムラサキシキブ等がみられます。珍しい植物としては、明治17(1884)年、札幌農学校(現北海道大学)の教授、宮部金吾が南千島までの植物調査の途中、様似山道を通過した際に新種として発見したサマニカラマツ(ナガバカラマツ)がある他、ウラシマソウ、ヒメニラ、ユウシュンランなどがみられます。また幹の周りが6mにもなるミズナラやカツラなどの大木も所々でみられます。



見どころ4

様似山道の地質

様似山道東入口からコトニ口付近まではアップダウンが多いです。これは、日高山脈の裾野が海岸線に迫っていることや地下深くでつくられた硬い岩石によって、このような急峻な地形がつけられました。展望スポットから眺める日高耶馬溪は海食崖と呼ばれるものです。



また、コトニ小休所付近はなだらかな平地になりますが、これはかつての波打ち際が隆起してできた段丘面で、コトニ川で見られる堆積物中の丸い石がかつての姿を伝えています。

SAMANI Mountain Path Map

車で日高耶馬溪を通り、東口(幌満)からスタートすることをお勧めします。山道は沢をいくつも横切るため、アップダウンが繰り返されます。登山に準じる服装で臨んでください。帰りは、路線バスかタクシーを利用してください。



樣似山道断面図



このグラフは概略を示したもので、実際の位置とは多少の誤差があります。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平29情使、第419-GISMAP39903号)